

Gard Insight

大豆の自己発熱によるクレームが中国で増加

こちらは、英文記事「[Soya bean claims due to self-heating on the rise in China](#)」（2017年7月12日付）の和訳です。

2017年も、南米（特にブラジル）積み中国揚げの大豆貨物に関して、熱損傷関連のクレームが数多く発生しています。クレームが発生すると、大豆は比較的高価な商品であることに加え、一度に大量に輸送されることから、船主は（船舶の差押えを避けるために）数百万ドルもの担保を要求される場合があります。



原因

熱損傷の原因は、大豆に含まれる微生物・細菌によって生じる自己発熱であり、自己発熱は主として大豆貨物の一部で含水率と貨物温度が上昇することの組み合わせによって生じます。大豆は、安全に保管できる期間（つまり、熱損傷が生じる可能性が低い期間）が限られています。含水率と温度が上昇し、航海時間が長くなればなるほど、大豆の自己発熱が生じる可能性が高くなります。

状況の悪化

本年3月にGardが発行した記事「[Brazil – Heavy rainfall has led to port congestion and risk of delays](#)（ブラジル – 大雨による港湾での滞貨発生に伴い、遅延のおそれ）」の中で取り上げたように、雨季を迎えたブラジル各所において猛烈な雨量が観測されました。これにより、大豆自体に与える影響とは別に、港湾の滞貨と遅延が生じています。

状況を悪化させているもうひとつの要因として、大豆を含む輸入農産物に課される付加価値税（VAT）が13%から11%に引き下げられたことに関連して、中国での貨物の荷揚げに遅延が生じている状況があげられます。この引き下げは2017年7月1日から適用されるため、適用後の低税率の恩恵を受けようと、荷受人が意図的に荷揚げを遅らせたことでドミノ式に遅延が拡大し、大豆の自己発熱による熱損傷の可能性がさらに高まっています。Gardがあるケースで起用した貨物の専門家によると、中国の日照（Rizhao）の代理店から、ブラジル産の大豆を積載したまま1カ月以上も錨地に停泊を続けている船舶が10隻以上もあったとの情報が寄せられたとのこと。詳しくはこちらのサイトをご覧ください。

<http://www.hellenicshippingnews.com/soybean-cargoes-piling-up-at-chinas-ports-as-imports-surge/>

推奨事項

- 積み荷役中は注意を怠らず、可能な限り詳細に目視による確認を行うようにしてください。（過去のロスプリベンション記事「[大豆貨物の熱損傷 – 検査の重要性](#)」をご覧ください。）
- 長時間にわたり十分な換気が行われない場所に過剰な水分を含有する豆が保管された結果、いわゆる「貯蔵焼け」による黒ずみが発生してしまうケースが後を絶ちません。正常な大豆の外観は、淡い黄色または茶色です。売買契約上では数パーセントの豆の損傷や変色は許容されますが、変色した部分や黒ずんだ大豆など、船積み時に、積荷の一部の色が明らかに正常なものとは異なっていることを見つけた場合は、Gardにお知らせください。過去のロスプリベンション記事「[大豆貨物の熱損傷 – 検査の重要性](#)」の中に、変色した大豆の写真を掲載していますのでご覧ください。

- 理想的には、積み荷役の休憩時や積み荷役終了時に、換気の必要性を判断するため、積荷の温度を計測すべきです。温度のバラツキ（およそ 5~10°C）や温度の上昇があった場合、自己発熱が既に始まっている兆候かもしれません。
- 航海中の適切な換気実施状況（換気を実施しなかった時期とその理由も含めて）を正確に記録しておくことが極めて重要です。

遅延などにより、荷揚げの開始までに長期間を要する可能性がある場合は、Gard にお知らせください。積荷の深さ 1m の位置の温度を安全に計測できる場合は、その情報を用船者や積荷の利害関係者に伝えることで、損害軽減策を検討することができます。温度の情報は、自己発熱が発生しているかどうかを示すものとなります。それを受けて、Gard が貨物の専門家を手配し、荷揚げ前の貨物の状況を示す証拠を収集します。最も状態の悪い熱損傷や最も深刻な熱上昇は、積荷の表面部分で発生します。温度情報の記録・分析をすることで、専門家がより適切な評価を実施し、荷受人からのクレームについてもより効果的な抗弁を行うことが可能となります。



Mark Russell
Vice President, Gard AS

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されております。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文と内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。